

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		プロッサムジュニア小倉中井教室【児童発達支援】				公表日		令和8年3月25日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		利用児童の人数や活動内容に応じてスペースの使い分けを行い、安全で過ごしやすい環境づくりに努めている。	今後も児童の特性に応じた菜乃葉環境調整を継続して行い、より安全性の向上を図る。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		基準人員を満たす配置を行い、児童の状況に応じて柔軟に職員配置を調整している。	支援の質向上のため、より適切な人員配置について継続的に検討する。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	バリアフリーや動線に配慮し、児童が安全に移動できる環境づくりを行っている。	設備面については必要に応じて改善を検討していく。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		清掃や整理整頓を徹底し、衛生的で安心できる環境を維持している。	感染症対策を含め、継続的に環境管理を強化していく。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	個別活動と集団活動に応じた空間設定を行い、落ち着いた過ごせる環境を整えている。	児童の状況に応じた柔軟な環境調整を継続する。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		職員会議等で支援の振り返りを行い、業務改善に繋げている。	より具体的な目標設定と評価を行い、改善の質を高める。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		保護者評価を実施し、結果を諸中井登録受印鑑で共有し支援改善に活かしている。	回収率向上と意見の活用方法を強化する。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		職員間で意見交換の機会を設け、業務改善に繋げている。	改善内容の具体化と実施状況の確認を強化する。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	2	自己評価を実施し、結果を踏まえた改善を行っている。				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		研修機会を確保し、職員の専門性向上に努めている。	研修参加の機会を均等に確保する。			
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		支援プログラムを作成し、公表している。	内容の充実を図り、よりわかりやすい公表に努める。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		アセスメントを実施し、児童のニーズに応じた支援計画を作成している。				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		職員揃って支援内容を共有し、適切な支援を行っている。				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		支援計画に基づいた支援を実施している。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		日々の観察や記録をもとに支援を行っている。				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	1	ガイドラインに基づき、本人支援・家族支援・移行支援・地域支援の視点で支援内容を設定している。				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		活動内容をチームで検討し、支援に反映している。	より他職種での検討機会を増やす。			

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1	活動が固定化しないよう工夫しているが、保護者の意見を優先して入れている。	活動の幅が広がるよう、今後も内容の検討を行なっていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		個別支援と集団活動を組み合わせた支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		支援前に打ち合わせを行い役割を確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。			支援後に振り返りを行い、支援改善に繋げている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		日々の記録を作成し、支援に活用している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		モニタリングを行い支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		関係機関との情報共有がおこなっている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		学校や相談支援事業所等と必要に応じて連携を図り、児童の支援に繋げている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1	関係機関との連携をとることを心がけており、情報共有等も必要な場合は行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1	移行支援に向けた情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	3	相談支援機関と連携し、必要に応じた支援を行っている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	4	地域との関わりを意識した支援を行っている。	交流機会を今後も増やしていく。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		保護者と日常的に情報共有を行っている。	情報共有の質を向上できるよう、職員間で今後も話し合いを行っていく。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3	保護者向けの情報提供の機会は希望があれば作っていく。	今後も、機会づくりを検討していき、必要があれば開催等を行っていく。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時やお問い合わせがあった際には説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		支援計画作成時には、保護者の意向を確認し、必要に応じて説明や相談の機会を設けている。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		支援内容について保護者に説明を行い、理解を得たうえで支援を実施している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		保護者からの相談に対して、必要に応じて助言や関係機関の紹介等を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	3		交流する機会は設けておらず、今後検討が必要である
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情や相談については、速やかに事実確認を行い、保護者へ丁寧に説明を行うとともに、職員間で共有し再発防止に努めている。	今後も迅速かつ適切な対応を継続し、記録の徹底と対応の質の向上に努めていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		InstagramやHPで発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		個人情報の取り扱いについて職員間で主周知し、適切な管理を行っている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		連絡帳や送迎時の口頭説明、必要に応じた面談を通して、保護者へ児童の様子や支援内容を丁寧に伝えている。	保護者との情報共有がより円滑に行えるよう、伝達方法の工夫や情報の充実を図っていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	4		実施していないため、今後の検討が必要
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定するとともに、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	4	各種マニュアルを整備し、職員間で菜乃葉共有するとともに定期的な訓練を実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		BCPに基づき、非常時に備えた対応について職員間で確認を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		利用開始時に児童の健康状態や既往歴を確認し、職員間で情報共有を行っている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	医師の指示書が必要な児童はいない。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全面に配慮した環境の中で支援を行い、事故防止に努めている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		完全に関する情報について保護者と共有し、連携を図っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ヒヤリハット事例を職員間で共有し、再発防止策を検討している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		定期的な研修を行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7		身体拘束や虐待防止について職員研修を実施し、適切な支援が行われるよう努めている。		